



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

BI ワークスペースユーザガイド

目次

1	SAP BusinessObjects BI ワークスペースへようこそ.....	3
1.1	このドキュメントについて.....	3
1.2	このドキュメントの対象読者.....	3
1.3	概要.....	3
2	BI ワークスペースの操作.....	5
2.1	はじめに.....	5
2.2	BI ワークスペースの作成.....	6
2.3	BI ワークスペースデザイナー.....	7
	BI ワークスペースのモジュールライブラリ.....	8
2.4	BI ワークスペースの名前の変更.....	9
2.5	BI ワークスペースの変更.....	9
	BI ワークスペースへのタブおよびサブタブの追加.....	10
	BI ワークスペースのタブまたはサブタブの名前変更.....	10
	BI ワークスペースのタブおよびサブタブの移動.....	11
	BI ワークスペースのタブおよびサブタブのスクロール.....	11
	BI ワークスペースでデフォルトとして設定.....	11
	BI ワークスペースのタブまたはサブタブの削除.....	12
	BI ワークスペースへのセキュリティの追加.....	12
	BI ワークスペースでのレイアウトの変更.....	13
	レガシー BI ワークスペースの編集.....	15
2.6	BI ワークスペースの削除.....	16
3	モジュールの使用.....	17
3.1	モジュールの作成および設定.....	17
	モジュールの使用.....	17
	Crystal レポートの表示設定.....	17
	Web Intelligence ドキュメントの表示設定.....	18
	モジュールとドキュメントのリンク.....	19
3.2	コンテンツリンク.....	20
	モジュールコンテンツのリンク.....	21

1 SAP BusinessObjects BI ワークスペースへようこそ

1.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) ワークスペースの使用に関する情報と手順について説明します。BI ワークスペースは、BI ランチパッドアプリケーション内で機能するよう統合された Web アプリケーションです。BI ランチパッドアプリケーションは、SAP BusinessObjects BI プラットフォームのオブジェクトを操作するためのインタフェースを提供します。BI ランチパッドには、BI プラットフォームのプラグインコンポーネントとして、Crystal レポート、BI ワークスペース、Web Intelligence ドキュメント、および Lumira ドキュメントがデプロイおよび統合されます。このドキュメントでは、BI ワークスペースの種類と作成方法、および BI ワークスペースを使用したデータソース間でのモジュールリンクについて説明します。

1.2 このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、Microsoft Windows および UNIX オペレーティングシステム上で BI プラットフォームおよび BI ワークスペースアプリケーションを使用する、ビジネスレポートの作成者、プロフェッショナルレポートの作成者、および BI ワークスペース管理者を対象としています。

データを深く分析し、効果的な統計を得るには、レポート生成、データソースの種類、コンテンツリンク方法に対する知識が必要です。

1.3 概要

BI ワークスペースでは、事業活動や業績を管理、把握、監視、および追跡できます。会社用 BI ワークスペースを管理することにより、組織は基本となる分析に対する洞察を得て、条件の変化に対応してビジネスルールを変更することができます。BI ワークスペースは、すべてのユーザに対してクリティカルな業務分野を監視するための一貫性のある最新の手段と、タブベースのナビゲーションとページ作成を提供します。プログラミングすることなくアプリケーションを簡単に構築でき、既存のアプリケーションをポイントをクリックするだけでカスタマイズできます。

BI ワークスペースを使用して、以下のタスクを実行します。

- モジュールコンポーネントを選択し、それを必要なページにドロップすることでアプリケーションを構築します。
- 定義済みモジュールテンプレートカタログからテンプレートを選択します。
- 再利用可能な構築済みモジュールテンプレートを、さまざまなビジネスシナリオに適用します。

BI ワークスペースには、コンテンツのルック & フィールを設定するためのシンプルな Web インタフェースがあります。Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、Lumira ドキュメントなどのアプリケーションに既存のコンテンツを簡単に統合できます。ユーザは、適切な権限で独自のアプリケーションビューを作成できます。

設定、概要、トレースの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド*、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 インストールガイド*、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 デプロイメント計画ガイド*、および *SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド*を参照してください。

2 BI ワークスペースの操作

2.1 はじめに

BI ワークスペースでは、Web Intelligence ドキュメント、Lumira ドキュメント、ハイパーリンク、Crystal レポートなどのさまざまな BI プラットフォームデータソースを、単一のビューで構成して表示することができます。複雑なデータの分析や管理を効果的に行え、組織全体で情報を共有できます。BI ワークスペースを使用することで、組織の目標に対する可視性が向上し、組織の業績と成長を監視することができます。BI ワークスペースでは、日常的に追跡する必要があるビジネスのすべての要素を一元的に表示できます。また、ページコンポーネントおよび情報交換を可能にするための通信機能も用意されています。

レポートおよびカテゴリのポートフォリオを独自に作成し、1 つ以上の BI ワークスペースを作成して、必要に応じて表示することができます。

BI ワークスペースには、次の種類のオブジェクトを含めることができます。

- モジュール
- Web Intelligence ドキュメント
- Lumira ドキュメント
- Crystal レポート
- Adobe PDF ドキュメント
- Microsoft Excel スプレッドシート
- Microsoft Word 文書
- テキストファイル
- リッチテキスト形式 (RTF) ファイル
- Microsoft PowerPoint プレゼンテーション
- ハイパーリンク

BI ワークスペースは、フォルダに保存することができます。フォルダには、次の 2 種類があります。

- パブリックフォルダ: **パブリックフォルダ**という名前のフォルダに保存された BI ワークスペースには、表示を共有するために作成された BI ワークスペースとモジュールが含まれます。これらの BI ワークスペースには、適切な権限を持つユーザがアクセスしたり表示したりすることができます。
- マイフォルダ: **マイフォルダ**という名前のフォルダに保存された BI ワークスペースには、パブリックフォルダとは異なり、個人的に表示するために作成された BI ワークスペースとモジュールが含まれます。ここには、個人でパラメータの拡張および変更ができるモジュールに関する情報が保存されています。

① 注記

パブリックフォルダまたはマイフォルダのどちらに保存されていても、BI ワークスペースには 1 つ以上のタブとサブタブを含めることができます。

- たとえば、頻繁にアクセスする Web サイト、Crystal レポート、または Web Intelligence ドキュメントを含む BI ワークスペースを作成することができます。これを BI ワークスペースフォルダのいずれかに保存してデフォルトビューとして設定したり、ナビゲーションパネルでそのリンクをクリックしたりすることができます。

- カテゴリの割り当て: パブリックフォルダまたはマイフォルダに保存された BI ワークスペースにカテゴリを割り当てることができます。

2.2 BI ワークスペースの作成

BI ワークスペースには、戦略を定義する際に役立つ、分析されたデータを基にした有用な情報となるコンテンツを含めることができます。BI ワークスペースは、BI ラウンチパッド内でのみ作成および編集することができます。

前提条件:

BI ワークスペースを作成するには、以下の情報を収集します。

- 対象ユーザを分析して、必要な情報を決定します。
- BI ワークスペースで伝達する情報の一覧。多数の情報がある場合は、タブの作成を検討してください。
- Web Intelligence レポート、Lumira ドキュメント、または Crystal レポートを含めることができるモジュール。
- BI ワークスペースのタブおよびサブタブでどのようにモジュールを整理するかの概要。
- 以下のようなデータセキュリティ上の問題の一覧:
 - 対象ユーザに適切なデータの種類の。
 - ユーザに表示するデータの詳細度などです。

BI ワークスペースを作成するには、以下を実行します。

1. BI ラウンチパッドにログオンします。
2. **アプリケーション** > **BI ワークスペース** の順にクリックします。
3. **[新しいワークスペース]** ページが表示されます。
[テンプレートを選択] で、テンプレートを選択することができます。
[最近のワークスペース] で、最近表示/編集されたワークスペースを開くことができます。
[すべてのワークスペース] をクリックして、利用可能なワークスペースを参照します。
4. 利用可能なテンプレートからワークスペースに必要なテンプレートを選択します。
 ワークスペースの**プレビュー**を確認することができます。
5. ワークスペースの**名前**、**キーワード**、および**説明**を入力します。
6. **[作成]** をクリックします。
 新しい BI ワークスペースが作成され、画面に表示されます。



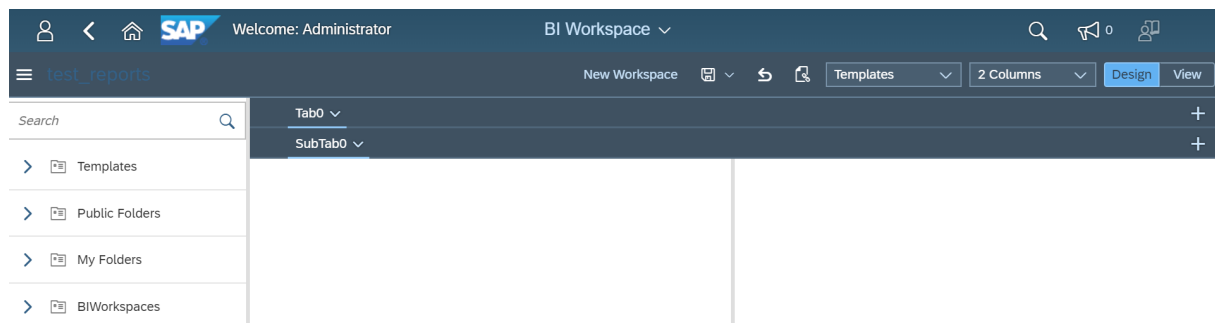
(保存) アイコンをクリックして、ワークスペースを保存します。

7. **[保存]** または **[名前を付けて保存]** を選択して、ワークスペースの保存場所を選択します。
[BI ワークスペースの保存] ダイアログボックスが表示されます。
8. ワークスペースを **[パブリックフォルダ]** または **[マイフォルダ]** に保存し、**[個人用カテゴリ]** や **[会社用カテゴリ]** などのカテゴリに割り当てることができます。
9. **[保存]** をクリックします。
「ワークスペースは正常に作成されました...」 というトーストメッセージが表示されます。



2.3 BI ワークスペースデザイン

Fiori BI ワークスペースによって、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 の拡張されたシンプルな機能が提供されます。

いったん目的の BI ワークスペースを BI ラウンチパッドで作成すると、その BI ワークスペースは BI ワークスペースデザイナーページで開くようになります。



BI ワークスペースデザイナーページには以下の情報が表示されます。

フィールド	説明
新しいワークスペース	新しい BI ワークスペースを作成します。
モジュールライブラリ	ページの左側にあるモジュールライブラリは、以下で構成されています。 <ul style="list-style-type: none">• テンプレート• パブリックフォルダ• マイフォルダ• BI ワークスペース
タブ 0	+ (追加) アイコンをクリックすると、BI ワークスペースにタブを追加できます。
サブタブ 0	+ (追加) アイコンをクリックすると、BI ワークスペースにサブタブを追加できます。
[保存] および [名前を付けて保存]	 (保存) アイコンをクリックすると、BI ワークスペースに対して行った最後の変更を適用し、 [パブリックフォルダ] または [マイフォルダ] に保存することができます。
変更を元に戻す	 (元に戻す) アイコンをクリックすると、BI ワークスペースに対して行った変更を元に戻すことができます。
コンテンツリンク	(コンテンツのリンク) アイコンをクリックすると、BI ワークスペースにモジュールをリンクすることができます。
レイアウトドロップダウン	BI ワークスペースのレイアウト ▾ ドロップダウンから、3 つのレイアウトオプションのいずれかを選択することができます。 <ul style="list-style-type: none">• テンプレート• 列レイアウト• 自由形式
[デザイン] ボタン	デザイナーページで BI ワークスペースを開いたり変更したりする場合、 [デザイン] モードがデフォルトで選択されます。

フィールド	説明
[表示] ボタン	[表示] モードでは、BI ワークスペースをプレビューすることができます。

2.3.1 BI ワークスペースのモジュールライブラリ

≡ (サイドナビゲーション切り替え) アイコンで示されるモジュールライブラリには、以下のオプションがあります。

- [テンプレート] には、以下を表示するためにカスタマイズできるモジュールテンプレートがあります。
 - ナビゲーション一覧
 - テキストモジュール
 - ビューア
- [パブリックフォルダ] には、すべてのドキュメント、レポート、および BI ワークスペースが含まれています。
- [マイフォルダ] には、[マイフォルダ] 内のドキュメント、レポート、および BI ワークスペースの一覧が示されます。
- [BI ワークスペース] には、すべての既存のモジュールとユーザ権限で利用できる BI ワークスペースの一覧が含まれています。
別のワークスペースのドキュメントまたはレポートを、現在開いているワークスペースに追加することができます。

→ ヒント

モジュールライブラリを表示または非表示にするには、BI ワークスペースの ≡ (サイドナビゲーション切り替え) アイコンをクリックします。

2.3.1.1 モジュールライブラリの検索

モジュールライブラリ上部の検索ボックスにキーワードを入力し、Q (検索) アイコンをクリックすることで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム内の任意のドキュメントを検索することができます。結果はモジュールライブラリの下に表示されます。結果をクリアするには、⊗ アイコンをクリックします。

検索では、名前がキーワードに一致するすべてのドキュメントがフィルタされます。ただし、メタデータを検索することはできません。




2.3.1.2 BI ワークスペースタブのナビゲーション一覧の使用

[ナビゲーション一覧] モジュールは、[ビューア] モジュールと一緒に使用するとアクティブな目次の役割を果たすため、BI ワークスペースタブ上のスペースを最大限に利用できます。複数のコンテンツ表示スタイルでは、**ナビゲーション一覧**を使用できません。

1. BI ワークスペースの編集モードで、モジュールライブラリを開きます。

2. [テンプレート] カテゴリから [ナビゲーション一覧] を BI ワークスペースのレイアウト領域にドラッグします。
3. [テンプレート] カテゴリから [ビューア] を BI ワークスペースのレイアウト領域にドラッグし、必要に応じてサイズを変更します。
4. **Ctrl** キーを押したまま、モジュールライブラリの任意のフォルダからナビゲーション一覧にモジュールをドラッグします。

ナビゲーション一覧内の項目を選択すると、その項目がビューアモジュールに表示されます。

5. ナビゲーション一覧ツールバーで  ([レポート設定の編集]) アイコンをクリックして、[名前の変更](#)、[ビューアの選択](#)、および[詳細オプション](#)の取得を行います。
6. [ナビゲーション一覧] の名前を変更するには、[名前の変更](#) をクリックし、**OK** をクリックします。
7. [ナビゲーション一覧ビューア] を選択するには、[ビューアの選択](#) をクリックし、**OK** をクリックします。
8. 以下のような [ナビゲーション一覧] の詳細オプションを取得するには、[詳細オプション](#) をクリックします。
 - a. [ナビゲーション一覧](#) を選択し、 (フォルダの追加) アイコンをクリックして、[フォルダを作成](#) します。
 - b.  (削除) アイコンをクリックして、選択したナビゲーション一覧を削除します。
 - c. ドロップダウンアイコンをクリックし、ナビゲーション一覧を上下に移動します。
 - d. **OK** をクリックして選択内容を保存します。

2.4 BI ワークスペースの名前の変更

1. 名前を変更する BI ワークスペースを見つけます。
2. BI ワークスペースを右クリックして、[プロパティ](#) を選択します。
BI ワークスペースの [プロパティ](#) ダイアログボックスが表示されます。
3. [一般プロパティ](#) ページの [タイトル](#) ボックスに BI ワークスペースの新しい名前を入力します。
4. **保存** をクリックします。
BI ワークスペースが新しい名前で保存されます。

2.5 BI ワークスペースの変更

([その他]) オプションを使用して、選択した BI ワークスペースを変更することもできます。(ここに [caf](#) アクションアイコンを入力します)。

1. BI ワークスペースを開くには [パブリックフォルダ](#) または [マイフォルダ](#) に保存されている BI ワークスペースをダブルクリックするか、カテゴリまたは [ドキュメント](#) を参照します。
選択した BI ワークスペースが開きます。
2. [BI ワークスペースの編集](#) をクリックします。

① 注記

CMC で BI ワークスペースを編集するには (管理者によって割り当てられた) 適切な編集権限が必要です。
パブリックフォルダに保存された BI ワークスペースを編集すると、ユーザすべてに変更内容が表示され

ます。個人用カテゴリに保存された BI ワークスペースを編集すると、変更内容は変更したユーザにのみ表示されます。

BI ワークスペースの編集ツールバーおよびモジュールライブラリハンドルが表示されます。

3. [モジュールライブラリ] でモジュールオブジェクトを選択し、このオブジェクトをレイアウト領域にドラッグして、目的の BI ワークスペースのデザインになるようにサイズ変更して調整することができます。
モジュールライブラリから BI ワークスペースにドラッグアンドドロップしたモジュールは、その BI ワークスペースの埋め込みオブジェクトとして保存されます。
4. BI ワークスペースに **タブ** または **サブタブ** を追加します。

① 注記

BI ワークスペースには、タブおよびサブタブを少なくとも 1 つ設定する必要があります。BI ワークスペースにタブまたはサブタブが 1 つしかない場合、それを削除しようとする、**「少なくとも 1 つのタブを保持してください。」** または **「少なくとも 1 つのサブタブを保持してください。」** というメッセージがポップアップ表示されます。

2.5.1 BI ワークスペースへのタブおよびサブタブの追加

BI ワークスペースに **タブ** および **サブタブ** を作成することで、コンテンツを整理できます。

1. 目的の BI ワークスペースを開きます。
2. **[BI ワークスペースの編集]** をクリックします。
BI ワークスペースが編集モードで開きます。
3. BI ワークスペースに **タブ** を作成するには、対応するタブバーの + (追加) アイコンをクリックします。BI ワークスペースに **サブタブ** を作成するには、対応するサブタブバーの + (追加) アイコンをクリックします。
4. **[保存]** をクリックします。
5. **[表示]** ボタンをクリックして、BI ワークスペースをプレビューします。

2.5.2 BI ワークスペースのタブまたはサブタブの名前変更

1. BI ワークスペースから、名前を変更するタブまたはサブタブを選択します。
2. タブまたはサブタブのタイトルの横にあるドロップダウンをクリックします。
3. メニューから **[名前の変更]** を選択します。
[名前の変更] ダイアログボックスが表示されます。
4. 新しい名前を入力し、**[OK]** をクリックします。
タブまたはサブタブは新しい名前で保存されます。
5. **[保存]** をクリックして、変更された BI ワークスペースを保存します。

2.5.3 BI ワークスペースのタブおよびサブタブの移動

BI ワークスペースで、タブまたはサブタブを新しい位置にドラッグすることができます。タブまたはサブタブを移動するには、以下の手順を実行します。

1. 移動するタブ/サブタブにカーソルを合わせると、そのドロップダウンが表示されます。
2. **[移動]** をクリックし、タブ/サブタブを移動する位置を選択します。

① 注記

タブまたはサブタブは、先頭、前、次、または最後のいずれかの位置に移動することができます。タブまたはサブタブが、BI ワークスペースツールバーの新しい位置に配置されます。

2.5.4 BI ワークスペースのタブおよびサブタブのスクロール

BI ワークスペースに、表示可能な数よりも多いタブまたはサブタブが存在する場合があります。表示されていないタブを表示するには、スクロールします。


BI ワークスペースで、以下のアクションを実行してタブおよびサブタブをスクロールします。

- > (**[前方へスクロール]**) アイコンをクリックして、タブおよびサブタブを前方へスクロールします。
- < (**[後方へスクロール]**) アイコンをクリックして、タブおよびサブタブを後方へスクロールします。
- v (ドロップダウン) アイコンをクリックして、**開いているタブ**を表示します。

2.5.5 BI ワークスペースでデフォルトとして設定

特定の BI ワークスペースで、特定のタブまたはサブタブをデフォルトのタブまたはサブタブとして設定することができます。

タブまたはサブタブをデフォルトとして設定するには、次の手順を実行します。

1. デフォルトとして設定するタブまたはサブタブにカーソルを合わせます。
タブまたはサブタブの横にドロップダウンが表示されます。
2. ドロップダウンをクリックし、**[デフォルトとして設定]** を選択します。
3.  (保存) アイコンをクリックし、行った変更を保存します。

次のトーストメッセージが表示されます。「ワークスペースは正常に更新されました...」

① 注記

- BI ワークスペースを開くと、デフォルトとして設定したタブが表示されます。
- 特定のタブの特定のサブタブをデフォルトとして設定すると、そのデフォルトのサブタブがその特定のタブに対して表示されます。

2.5.6 BI ワークスペースのタブまたはサブタブの削除

BI ワークスペースで作成し、パブリックフォルダおよび個人用フォルダに保存したタブおよびサブタブを削除することができます。

1. BI ワークスペースで、削除する**タブ**または**サブタブ**を選択します。
2. そのタブの横の矢印をクリックし、**[削除]**を選択します。

次のような削除確認メッセージウィンドウが表示されます。

- タブ:Tab2 を削除してもよろしいですか？
- サブタブ:fdsf sdf を削除してもよろしいですか？

3. **タブ**または**サブタブ**を選択して、**[OK]**をクリックします。

2.5.7 BI ワークスペースへのセキュリティの追加

パブリックフォルダに保存されている BI ワークスペースは、大規模コミュニティ内や特定のグループ間で、重要な情報を共有します。これらの BI ワークスペースは、情報の共有に使用することができます。パブリックな BI ワークスペースでは、業務上の守秘義務を目的とした、複数のユーザと共有できない追加のセキュリティオプションを設定することができます。

BI プラットフォームセントラル管理コンソール (CMC) で、BI ワークスペースのセキュリティルールを設定します。セキュリティは、次の 2 つの方法で設定することができます。

- フォルダレベル: BI ワークスペースは BI ラUNCHパッドの **[パブリックフォルダ]** に保存されます。管理者は、フォルダのアクセス設定、または各ユーザやユーザグループのアカウント設定を CMC で行うことで、フォルダへのアクセスを制限できます。
- ユーザ権限: 特定の編集権限を持つユーザのみが BI ワークスペースを編集することができます。BI ワークスペースの権限設定の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

1. BI プラットフォーム CMC で、**[マイフォルダ]** 領域の BI ワークスペースの一覧を展開し、BI ワークスペースを選択します。
2. BI ワークスペースを右クリックして、**[ユーザセキュリティ]** を選択します。
[ユーザセキュリティ] ウィンドウが表示されます。
3. **[主体の追加]** をクリックします。
[主体の追加] ウィンドウが開き、利用可能なユーザとグループが表示されます。
4. **[利用可能なユーザ/グループ]** 一覧でユーザを選択し、**[>]** 矢印を使用してユーザを **[選択されたユーザ/グループ]** 一覧に移動します。
5. **[セキュリティを追加して割り当てる]** をクリックします。
[セキュリティの割り当て] ウィンドウが開き、使用できるアクセスレベルが表示されます。
6. **[利用可能なアクセスレベル]** 領域でアクセス権を選択し、**[>]** 矢印をクリックして **[割り当てられたアクセスレベル]** 一覧に追加します。

権限	説明
フルコントロール	フルアクセスの許可
フルコントロール (所有者)	オブジェクトへのフルアクセス権および所有権を付与します。

権限	説明
スケジュール	オブジェクトに対する表示権限、コンテンツオブジェクトのオンデマンド表示を許可する
表示	オブジェクトに対する表示権限を許可する
オンデマンド表示	オブジェクトに対する表示権限、コンテンツオブジェクトのオンデマンド表示を許可する

7. [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
[ユーザーセキュリティ] ウィンドウが開き、選択したアクセスレベルが[主体の追加] ページに表示されます。
8. [閉じる] をクリックします。

① 注記

ビューアクセスレベルを選択すると、[BI ワークスペースの編集] ボタンは使用できなくなります。

2.5.8 BI ワークスペースでのレイアウトの変更

[テンプレート] レイアウトを選択すると [レイアウト選択] ドロップダウンが表示されます。BI ワークスペースで作成され、[マイフォルダ] または [パブリックフォルダ] に保存されているタブおよびサブタブのレイアウトを変更することができます。

編集中の BI ワークスペースで、次の手順でレイアウトスタイルを選択します。

- レイアウト書式を使用せずに BI ワークスペースにオブジェクトを配置するには、[自由形式] レイアウトを選択します。
- 事前定義済みのレイアウトを使用するには、[テンプレート] レイアウトを選択します。▼ ([レイアウト選択]) ドロップダウンアイコンが表示されます。
- 列構造型の BI ワークスペースを構築する場合は、[列] レイアウトを選択します。


① 注記

モジュールを含む BI ワークスペースのレイアウトを変更すると、新しいレイアウトモードに合わせてモジュールが再配置されます。

2.5.8.1 テンプレートレイアウトでの BI ワークスペースの操作

[テンプレート] レイアウトモードには、BI ワークスペースオブジェクトのレイアウト書式が用意されています。別のモードから [テンプレート] モードに切り替えると、BI ワークスペースに次のような影響があります。

- [自由形式] モードから切り替えたときに、BI ワークスペースオブジェクトが特定の順番にない場合、それらは隣接する列に配置されます。テンプレートを選択すると、そのテンプレートの行と列に合わせて BI ワークスペースオブジェクトが移動します。
- [列] モードから切り替えてテンプレートを選択すると、テンプレートのセルに合わせて BI ワークスペースオブジェクトが移動します。
- 選択した定義済みテンプレートにあるプレースホルダより多くのオブジェクトが存在する場合は、BI ワークスペースの 1 番下に追加のモジュールが付加されます。

- テンプレートに切り替えるか、テンプレート間で切り替えると空のスポットが生じる場合があります。必要に応じて、モジュールを並べ替えてください。
1. BI ワークスペースの[[レイアウト](#)]ドロップダウンリストで、[[テンプレート](#)]を選択します。
[[レイアウト選択](#)]ドロップダウンリストが[[テンプレート](#)]レイアウトの横に表示されます。
 2. [[レイアウト選択](#)]ドロップダウンオプションから[テンプレートを選択](#)することができます。
 3. モジュールを追加し、 (保存) アイコンをクリックします。

2.5.8.2 列レイアウトでの BI ワークスペースの操作

[[列レイアウト](#)]モードでは、列を追加、削除、およびサイズ変更することができます。レイアウト内の各列をドラッグしてサイズを変更することができます。これにより、BI ワークスペースが見やすかつ使いやすくなります。

1. BI ワークスペースの[[レイアウト](#)]ドロップダウンリストで、[[列レイアウト](#)]を選択します。
[[列の追加](#)]および[[列の削除](#)]アイコンが[[列レイアウト](#)]の隣に表示されます。
2. 次のコントロールを使用してレイアウトを定義します。

オプション	説明
(+) 列の追加	レイアウトに列を追加します。
(-) 列の削除	レイアウトから列を削除します。
列スプリッタ	適宜にレイアウトおよび列のサイズを変更します。 次の2つの方法で列を調整することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 列スプリッタをクリックし、適宜にドラッグする。 • 列スプリッタをクリックし、矢印キーを使用して列スプリッタを適宜に移動する。

2.5.8.3 自由形式レイアウトでの BI ワークスペースの操作

[[自由形式](#)]レイアウトモードでは、レイアウト書式を使用せずに、BI ワークスペースのタブまたはサブタブにオブジェクトを配置することができます。

1. BI ワークスペースの編集モードで、[[レイアウト](#)]一覧から[[自由形式](#)]を選択します。
ワークスペース内でモジュールをドラッグアンドドロップすることができます。
2. [[保存](#)]をクリックしてBI ワークスペースを保存します。

2.5.9 レガシー BI ワークスペースの編集

レガシー BI ワークスペースは、BI 4.2 などの旧バージョンの BI で作成されたワークスペースです。

レガシー BI ワークスペースを編集するために、BI 4.2 からワークスペースをエクスポートし、LCM BIAR ファイルを使用して BI 4.3 にインポートすることができます。インポートされた BI ワークスペースは、保存したフォルダで 사용할 수 있습니다。

1. レガシー BI ワークスペースを編集するには、... アイコンをクリックします。

選択した BI ワークスペースがデザイナーページで開き、サポートされていないモジュールが **[モジュールはサポートされていません]** として表示されます。

2. **[保存]** をクリックしてワークスペースを保存します。

レガシー BI ワークスペースの編集時に **[保存]** をクリックすると、次のような確認メッセージが表示されます。「サポートされていないモジュールは削除され、回復することはできません。続行しますか? 詳細については、BI ワークスペースガイドを参照してください。」

3. **[OK]** をクリックします。

[ワークスペースは正常に更新されました...] というトーストメッセージが表示されます。

① 注記

また、**[名前を付けて保存]** を実行することもできます。この場合、既存の BI ワークスペースを変更せずに、選択したフォルダにワークスペースを保存することができます。

これは、古い BI ワークスペースを保持し、新たに保存した BI ワークスペースでサポートされていないモジュールを除外するためです。

[表示] モードで BI ワークスペースを編集することもできます。画面の右上に **[編集]** ボタンが表示されます。

[編集] ボタンをクリックして、デザイナーページで BI ワークスペースを開き、上記と同じ手順に従います。

BI 4.3 でサポートされていないモジュールの詳細については、**BI 4.3 でサポートされていないモジュールの一覧 [15 ページ]** を参照してください。

2.5.9.1 BI 4.3 でサポートされていないモジュールの一覧

一部のモジュールは、サポートされていないか、4.3 BI ワークスペースで削除されました。

- 4.3 BI ワークスペースでサポートされていないモジュールは、以下のとおりです。
 - モジュールの作成 (Analytics)
 - 印刷プレビューと印刷
 - 4.2 のコンテンツリンクワークスペースの編集
 - Xcelsius ドキュメント
- **[作成]** モードで、**[ドキュメントエクスプローラ]** でサポートされていないモジュールは、以下のとおりです。
 - 会社用一覧
 - 個人用一覧

- 受信ボックス
- クエリパネル
- [作成] モードで、[BI ラウンチパッドモジュール] でサポートされていないモジュールは、以下のとおりです。
 - コラボレーションのフィード
 - マイアラート
 - マイアプリケーション
 - マイ受信ボックス
 - 最近実行したドキュメント
 - 最近表示したドキュメント
 - SAP StreamWork フィード
- [作成] モードで、[テンプレート] でサポートされていないモジュールは、以下のとおりです。
 - グループ
 - Web ページモジュール
 - HTML モジュール
- 4.3 BI ワークスペースの削除モジュールは、以下のとおりです。
 - 目盛の幅
 - 目盛の高さ
 - 従来の BI ワークスペースパネル内でのヘルプ

2.6 BI ワークスペースの削除

BI ワークスペースには、企業の目的にとって重要な情報が含まれていることがあるため、ワークスペースを削除する前に関係者に確認してください。

1. BI ラウンチパッドの [フォルダ] タイルで、BI ワークスペースを含む [パブリックフォルダ] または [マイフォルダ] を見つけます。
2. ワークスペースを選択し、⋮ アイコンをクリックします。
3. [削除] をクリックします。

① 注記

[削除] ダイアログボックスが開きます。次のような警告メッセージが表示されます。「これによりファイルが削除されます。続行しますか?」

4. [OK] をクリックします。

3 モジュールの使用

3.1 モジュールの作成および設定

3.1.1 モジュールの使用

モジュールを変更して、分析および表示する情報の種類を表示できます。BI ワークスペースページに組み込まれたモジュールで次の操作を実行できます。

- モジュールを BI ワークスペースに追加する
- Crystal レポートの表示を設定する
- Web Intelligence ドキュメントの表示を設定する
- モジュールとドキュメントをリンクする

3.1.2 Crystal レポートの表示設定

BI ワークスペースで Crystal レポートの表示設定を設定するには、モジュールツールバーの [\[編集\]](#) をクリックします。[\[コンテンツの編集\]](#) ダイアログボックスの [\[コンテンツ\]](#) タブで以下のオプションを設定できます。

カテゴリ	オプション	説明
表示するドキュメント	ドキュメント一覧	レポートを見つけるために参照するフォルダツリーを表示します。
	ビューア	ビューアでレポートコンテンツを表示します。
このドキュメントの取得	ソースフォルダからのみ	表示されたドキュメントのデータソースを検索する場所です。
	受信ボックスを先に確認して、コピーがない場合はソースフォルダから取得する	
	受信ボックスからのみ	
表示モード	パートビュー	デフォルトのビューアでレポートの最初の部分のみを表示します。 このオプションは、Crystal Reports で設定および定義されたレポートパートを持つレポートに適用されます。詳細は、 <i>SAP Crystal Reports 2020 ユーザガイド</i> のレポートパートビューアに関する情報を参照してください。

カテゴリ	オプション	説明
	ページビュー	レポート全体をデフォルトのビューアで表示します。
ズームレベル	%	ズーム率 (25%、50%、または 100%) を設定します。 詳細は、SAP Crystal Reports 2020 ユーザガイドのマップのズームインとズームアウトに関する情報を参照してください。
	カスタム	カスタムのズーム率を設定します。
レポートコンテンツ	オンデマンド	レポートを開くたびにレポートデータを最新表示します。
	最新インスタンス	BI プラットフォームの最新のインスタンスからレポートデータを表示します。
	ユーザ別最新インスタンス	[ユーザ名] ボックスで設定したユーザで、BI プラットフォームの最新インスタンスのレポートデータを表示します。
表示するレポートパーツ	デフォルトのレポートパーツ	レポートパーツビューアで指定したレポートパーツを表示します。
	選択されたレポートパーツ	ユーザが選択するレポートパーツを表示します。レポートに対して、[レポートオプション] ダイアログボックスにある次のオプションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> オブジェクト名: 出力先オブジェクトとして使用するレポートオブジェクトの名前です。 データコンテキスト: 出力先オブジェクトとして使用するデータコンテキストです。

レポートパーツおよび [レポートパーツビューア] に関する情報は、Crystal Reports のドキュメンテーションを参照してください。

3.1.3 Web Intelligence ドキュメントの表示設定

BI ワークスペースでの Web Intelligence ドキュメントの表示方法を決定するには、ドキュメントを BI ワークスペースにドラッグして、以下のオプションを設定します。

- Web Intelligence ドキュメントの一部を選択するには、その部分を右クリックし、[このレポートパーツを選択] を選択します。ユーザが選択した部分のみが表示されます。[編集] をクリックして、ドキュメントを編集します。
- Web Intelligence ドキュメントの一部を選択解除するには、その部分を右クリックし、[このレポートパーツの選択解除] を選択します。ドキュメント全体が表示されます。

BI ワークスペースで Web Intelligence ドキュメントの表示設定を設定するには、モジュールツールバーの [編集] をクリックします。[コンテンツの編集] ダイアログボックスの [コンテンツ] タブで以下のオプションを設定できます。

カテゴリ	オプション	説明
表示するドキュメント	ドキュメント一覧	ドキュメントを見つけるために参照するフォルダツリーを表示します。
	ビューア	ビューアでドキュメントコンテンツを表示します。
このドキュメントの取得	ソースフォルダからのみ	表示されたドキュメントのデータソースを検索する場所です。
	受信ボックス、次にソースフォルダ	
	受信ボックスからのみ	
レポートコンテンツ	オンデマンド	ドキュメントを開くたびにドキュメントデータを最新表示します。
	最新インスタンス	BI プラットフォームの最新のインスタンスからドキュメントデータを表示します。
	ユーザ別最新インスタンス	[ユーザ名] ボックスで設定したユーザで、BI プラットフォームの最新インスタンスのドキュメントデータを表示します。
表示モード	フルレポート	ツールバーでドキュメントを表示します。ツールバーオプションの詳細は、Web Intelligence のドキュメンテーションを参照してください。
	コンパクトモード	ユーザの権限により決定されたオプションおよびツールバーを使用してドキュメントを表示します。これにより、ワークスペース内のスペースを節約できます。
	レポートパーツ	選択されたドキュメントパーツを表示します。パーツ ID がテキストボックスに表示されます。その ID を別のアプリケーションで使用できます。

① 注記

SAP BusinessObjects BI 4.3 SP3 パッチ 1 以降、BI ワークスペースで Web Intelligence コンテンツを使用すると、Web Intelligence アプリケーションバー全体が表示され、Web Intelligence アクションがユーザに提供されます。

BI ワークスペースで Web Intelligence ドキュメントを編集することはできません。Web Intelligence ドキュメントの編集は、Web Intelligence で直接行う必要があります。

3.1.4 モジュールとドキュメントのリンク

モジュールとドキュメントにリンクを追加し、モジュールやドキュメント間で情報にアクセスしたり、情報を共有したりできます。

Web Intelligence ドキュメントと Crystal レポートを使用するモジュールのリンク

モジュールをリンクし、そのリンクにプロンプトパラメータを含めることができます。プロンプトパラメータを追加すると、リンク先のモジュールやドキュメントに表示されるデータは、最初のモジュールに表示される値に応じて動的に生成されます。単一のモジュールとドキュメントまたは複数のモジュールとドキュメントをリンクすることができます。

3.2 コンテンツリンク

コンテンツリンクは、Interportlet Communication フレームワークを介した複数のコンポーネントの接続です。BI ワークスペースコンポーネントではこのフレームワークを使用して、ドキュメントとモジュール間でデータを転送します。Web Intelligence ドキュメントのみがコンテンツリンクのソースモジュールとして使用できます。

ソースモジュールにデータを表示して、BI ワークスペースの次のターゲットモジュールのデータをリンクできます。

- ターゲットモジュールとしての Crystal レポート
- ソースモジュールおよびターゲットモジュールとしての Web Intelligence ドキュメント
Web Intelligence をソースモジュールとして定義する場合、動的値はコンテンツリンクフレームワークから、Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントのプロンプト/フィルタに渡されます。

① 注記

コンテンツリンクは Design Studio ドキュメントおよび Lumira ドキュメントではサポートされていません。

コンテンツリンクを使用することにより、詳細なレベルでダイナミックモジュールリンクを使用することができ、送信される情報を管理できます。

BI ワークスペースの **[コンテンツのリンク]** レイアウトでソースモジュールおよびターゲットモジュールに表示されるパラメータの一覧を選択します。

BI ワークスペースでコンテンツリンクを設定するには、BI ワークスペースツールバーで **[コンテンツリンク]** アイコンをクリックします。

表示されたソースパラメータごとに、対応するターゲットパラメータを選択してデータを送信できます。

Available Connections

	Modules	Ports
Source	ALG - Doc Test1	PARAMETERS_OUT
	ALG - Doc Test1	FILTER_IN

Parameter Mapping

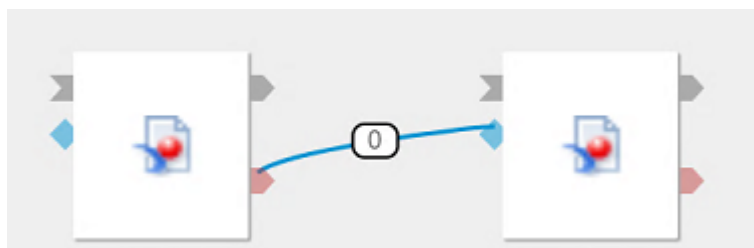
Source Parameter	Target Parameter
City Type: STRING	None
Month Type: STRING	None
Quarter Type: STRING	None
State Type: STRING	None
Year Type: STRING	YearType: STRIN

Delete Connection

Close

ランタイムにソースモジュールでトリガされた所定のパラメータに対し、BI ワークスペースは表示するパラメータを判定し、その値を取得して、詳細リンクを基にターゲットモジュールに値を渡します。

リンクに対するパラメータ (プロンプトおよびフィルタ) をプレビューするには、コンポーネントの一部をリンクまたはリンク解除するようユーザインタフェースを設定します。ビジュアルインジケータにより、リンクされるコンポーネントが特定されます。




3.2.1 モジュールコンテンツのリンク

Web Intelligence モジュールを使用してコンテンツリンクを実行する前に、BI ラUNCHパッドで Web Intelligence 基本設定を設定して、[Web] オプションを表示する必要があります。

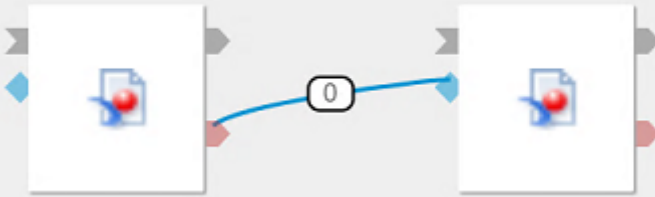
同じ BI ワークスペースタブまたはサブタブにある Web Intelligence ドキュメントおよび Crystal レポートモジュール間に動的通信を設定できます。ソースモジュールは、実行時に 1 つまたは複数のターゲットモジュールにパラメータ値として情報を送信します。このパラメータ値は、Web Intelligence ドキュメントおよび Crystal レポートのプロンプト/フィルタに入力されます。

Web Intelligence モジュールとその他のターゲットモジュール間の動的通信を容易にするには、外部インタフェース接続コンポーネントを使用します。ユーザが [パラメータ] 領域の値を選択し、この情報がソースモジュールからターゲットモジュールに送信された後にプロンプト/フィルタ値として挿入されます。

1. モジュールライブラリから、ソースのモジュールを BI ワークスペースレイアウトにドラッグします。
2. 1 つ以上のターゲットモジュール (Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント) を BI ワークスペースレイアウトにドラッグします。
3. BI ワークスペースツールバーで、 ([コンテンツリンク]) アイコンをクリックします。
選択可能なソースモジュールおよびターゲットモジュールとともに [コンテンツのリンク] ダイアログボックスが表示されます。テーブルには、ソース/ターゲットモジュール、および関連するソース/ターゲットパラメータが一覧表示されます。点線はリンクされたモジュールを示していますが、接続が設定されるまでにパラメータをマップする必要があります。

① 注記

リンク用に選択されたレポートが [コンテンツのリンク] ダイアログボックスにボックスとして表示され、レポートタイプのアイコンがボックス内に表示されます。各レポートには、接続が完了している小さなポートが含まれます。



レポートには、レポートで受け入れることができるパラメータプロンプト/フィルタのパラメータに基づくポートがあります。指定されたレポートのポートは、レポートの種類に基づきます。例: Web Intelligence レポートには IN ポートと OUT ポートの両方が含まれますが、CR レポートには IN ポートのみが含まれます。

[[コンテンツのリンク](#)] レイアウトでレポートを選択すると、そのレポートに定義されたパラメータに基づいて、そのレポートで使用可能なポートが表示されます。パラメータがレポートに定義されていない場合、ポートは表示されません。レポートには以下のポートが表示されます。

- **OUT ポート**
 - [LEGACY_OUT](#)
 - [PARAMETER_OUT](#)
- **IN ポート**
 - [LEGACY_IN](#)
 - [FILTER_IN](#)

① 注記

あるレポートのレガシーポートは別のレポートのレガシーポートに接続できますが、指定されたレポートの他のポートには接続できません。

4. [[パラメータマッピング](#)] テーブルで、[[ソースパラメータ](#)] 列のソースパラメータを選択します。
5. [[ターゲットパラメータ](#)] 列のターゲットパラメータを選択します。
パラメータが組み合わせられ、モジュールがリンクされます。その他のコンテンツリンク接続は、ポートについて以下の色インジケータによって表されます。
 - [FILTER_IN](#): 青
 - [PARAMETER_OUT](#): 赤色
 - [LEGACY_IN](#) および [LEGACY_OUT](#): 灰色

OUT ポートは常に IN ポートと接続されます。使用できるすべての接続の一覧が [[コンテンツのリンク](#)] レイアウトに表示されます。これらの接続は、通常は数値であるメジャーではなく、ディメンションを介して行われます。ターゲットモジュールには、OUT ポートがありません。



6. [ターゲットパラメータ] では、レポート間で確立される接続数を定義します。

① 注記

接続が確立されると、青一色の線で表されます。この線は、接続を選択しなかった場合は灰色になります。



接続を設定すると、レポート間の接続数が [コンテンツのリンク] レイアウトに表示されます。

7. [閉じる] をクリックします。
8. デザインページで、最初のレポートの値を選択すると、2 番目のレポートの対応する値が更新されます。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。